

Topic 1

◇新高1生は今（高校入学前）が勝負！

高校受験を終えたこの春、高校に入学する皆さん、こんにちは！ この高校部通信では大学現役合格に有効な勉強法や受験情報を「戦略的に」お伝えしています。「戦略的に」とは、「みなさんの夢や志望に寄り添いながら効率的に」という意味です。精神論も述べることはありますが、その場合も闇雲な努力を求めるのではなく、「合理的な精神論」をお話したいと思っています。これからもこの高校部通信をよろしくお願いします！

さて、本題に入ります。高校受験を終えて、勉強はひと段落と考えている人、高校入学までの間は少しはのんびりしようと考えている人、そういう人が多いのではないのでしょうか？ その人は実にもったいないことをしています。

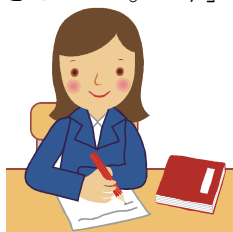
なぜなら、「今」の時期が一番学力が伸びる時期だからです。

理由は2つあります。1つは、「今」は受験勉強を終えて多くの知識が蓄えられている時期であること。それらの知識を忘れないうちに、より高度な問題に挑戦することは、学力をあげることにとっても有益です。多くのことを忘れてしまってから、再び勉強し直すことは非効率ですね。

もう1つは、同じ高校に入学した同級生たちの学力はほぼ同じくらいであることです。入学試験を突破した人たちが集まるわけですから、狭い学力の幅の中に大勢の人たちがひしめき合っています。少し油断すると、「少しの差が大きな差」になり、学力順位は大きく下がってしまいます。

県立入試の自己採点から判断して、おそらくトップの成績で合格した生徒が、高校入試後から勉強を怠り、1学期の中間テストで学年順位が360名中300番台にまで落ちてしまったという例もあります。ほんの1・2ヶ月の気の緩みで、300名の人たちに追いつかれてしまったのです。

裏を返せば、ここで気を抜かずに勉強を継続すれば、短期間で学力（順位）をあげることができるということです。高校に入ってから成績（順位）がよければ、もちろん大学受験にも有利です。高1の学力が高3になっても維持される確率は80%というデータがあります。高1初めの定期テストで好順位をとると、高3までよい成績が維持され、第一志望大学の現役合格が近づきます。高1のスタートで失敗すると、高3になってもほとんどの人が成績を挽回できません。「今」の時期に継続して勉強することが、「戦略的に」考えても得策なのです。



3月に入り俊英館では「新学年」がスタートしました。新たな学年になり、いままでの高校2年生は受験生としての授業スタイルで勉強していきます。

受験スタート時期に、現役受験生に一番強調したいことは「3月から夏までで受験結果が決まる」ということです。「夏が終了するまでに自分をどれだけ勉強漬けにできるかで合否が決まる」とも言います。これは大げさなことではなく、いままでの受験生の成績の伸びのデータから、「受験を戦略的に考える」上で必要不可欠な意識なのです。

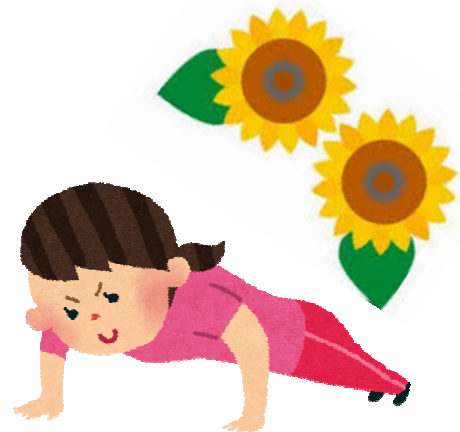
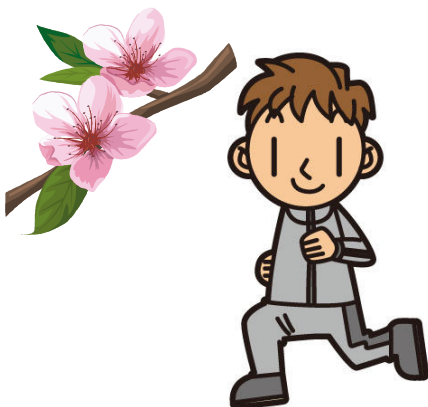
現役受験生の「最大のライバル」は浪人生です。現役時に大学に進学せず、もう1年受験勉強を続けることを決めた人たちですから、相当の「覚悟」があり気合も高まっています。現役生は、そのような浪人生と机を並べ、入試会場で同一の問題を解き、合格最低点より高い得点を得て、合格を勝ち取ることが必要なわけです。

浪人生は現役生と違って1日中受験勉強に時間を充てることができます。学校の授業で受験に必要な科目を勉強することも、定期テスト勉強の時間も必要ありません。圧倒的に勉強量で差がついてしまう浪人生と同じ土俵で戦うためには、夏休み（ほぼ40日間）の勉強でどれだけ成果を出せるかが鍵になってきます。「夏が受験の天王山」と言われる所以です。

では、夏が重要だからといって、いきなり夏休みに10時間以上の勉強を続けることができるでしょうか？それは、何も練習を積まずにいきなりフルマラソンを走れと言われるようなもので、必ず途中でリタイアしてしまうでしょう。

夏までに「受験体力」をつける必要があるのです。夏休みに充実した受験勉強をするために3月から「受験体力」をつけていかなければ、現役生「最大のライバル」には到底かないません。

夏休み終了時点で自分自身の勉強を振り返って「精一杯できた」という達成感が得られれば、9月以降の模擬テストで浪人生をしのぐ「成績の伸び」を実現できます。現役生は後半に伸びます！ そのためにも3月から浪人生と同じレベルで気持ちを高め、受験生としての「覚悟」を決め、受験勉強に臨んでほしいと思います。



1 地方私立大 進む公立への衣替え

地方の私立大が公立大に衣替えする動きが進んでいる。今後も、少なくとも6私大がその予定か構想があるという。少子化が進み、私大経営が厳しさを増すことが主な要因だが、将来、国や引き受けた自治体の財政上の負担が増えかねないとの指摘もある。

2018年ごろから18歳人口が減り始めると予測され、国の財政難で私学への補助金の伸びも見込めない。こうした中で千歳科学技術大は昨年12月、北海道千歳市への公立化を求める要望書で、少子化の急速な進行や受験生の国公立大・大規模私大志向、地域経済低迷による教育費の負担増などを挙げ、「地方の私立大学の運営は極めて厳しい」などと記した。姉妹校2校を地元自治体に任せた東京理科大は、2校を含め全体としては経営は順調だというのが、少子化や他大との競争激化に備え、キャンパス再編など「選択と集中」を進める一環だという。

自治体側が財政負担をしてでも公立化に踏み切るのは、大学を引き受けることで若者が残り、地元経済への波及効果が見込めるためだ。また、大学の運営費の一部が国から地方交付税交付金として配分されるため、授業料引き下げなどで学生も集めやすくなる。もともと、私大として設立された時、地元自治体が財政的支援をしていた例がほとんどだ。

2 中教審 高校で「公共」必修を答申

中教審(中央教育審議会)は12月21日、小・中・高校で2020年度から順次全面实施する学習指導要領の改定案を文科相に答申した。高校では18歳以上への選挙権年齢引き下げを受け、公民に必修科目「公共」を新設するなど大幅再編が行われる。22年度の新入生から学年ごとに順次実施される予定。

答申で注目されるのは、「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」などの視点で指導要領を見直すべきだとの指摘である。加えて、育成する力の明示や、生徒が主体的に授業に参加する「アクティブ・ラーニング」の全教科での導入を求めている。

「公共」では政治参加や労働問題を取り上げる。また、日本と世界の近現代史が中心の「歴史総合」と、国際理解や防災などを扱う「地理総合」の必修科目を地理・歴史に新設し、国語や外国語の科目も再編する。「成功の鍵」として、20年度から大学入試センター試験に替わる新テストなど、大学入試と高校教育を一体的に改革することが強調されている。

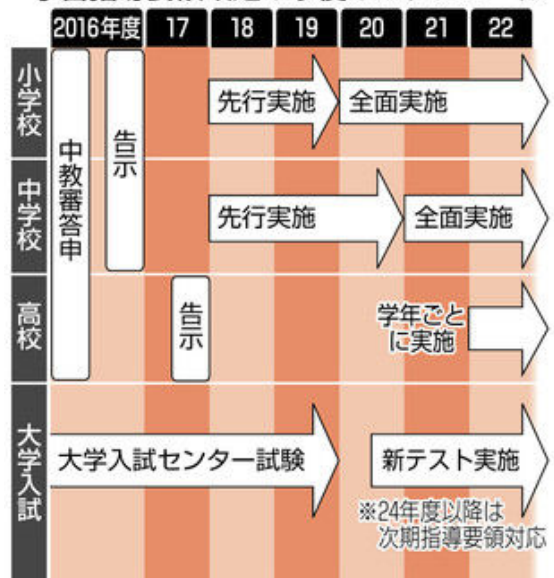
<学習指導要領> 児童生徒に教えなくてはならない最低限の学習内容や目標などを示した教育課程の基準で、約10年ごとに改定される。教科書作成や内容の周知のため、文科相が告示してから全面实施まで、3、4年程度の期間が設けられる。

中教審が示した主な教科・科目などの改定案

高校	
改定案	現行
<p>■ = 共通必修科目 □ = 選択必修科目 □ = 新設の科目</p> <p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 現代の国語 (共通) 言語文化 (共通) 論理国語 (共通) 文学国語 (共通) 国語表現 (共通) 古典探究 (共通) <p>地理歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理総合 (共通) 歴史総合 (共通) 地理探究 (共通) 日本史探究 (共通) 世界史探究 (共通) <p>公民</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共 (新設) 倫理※ (共通) 政治・経済※ (共通) <p>外国語</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語コミュニケーションI (共通) 英語コミュニケーションII・III (共通) 論理・表現I・II・III (共通) 	<p>国語総合 (共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国語表現 (共通) 現代文A・B (共通) 古典A・B (共通) <p>世界史A・B (AかBのいずれか) (共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本史A・B (共通) 地理A・B (選択) <p>現代社会 (選択)</p> <ul style="list-style-type: none"> 倫理 (共通) 政治・経済 (選択) <p>コミュニケーション英語I (共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション英語II・III基礎 (共通) 英語表現I・II (共通) 英語会話 (共通)

※「倫理」「政治・経済」は名称を維持し、内容を再編

学習指導要領改定の今後のスケジュール



小学校

小学3-4年	外国語活動	小学3-4年	なし
小学5-6年	英語	小学5-6年	外国語活動

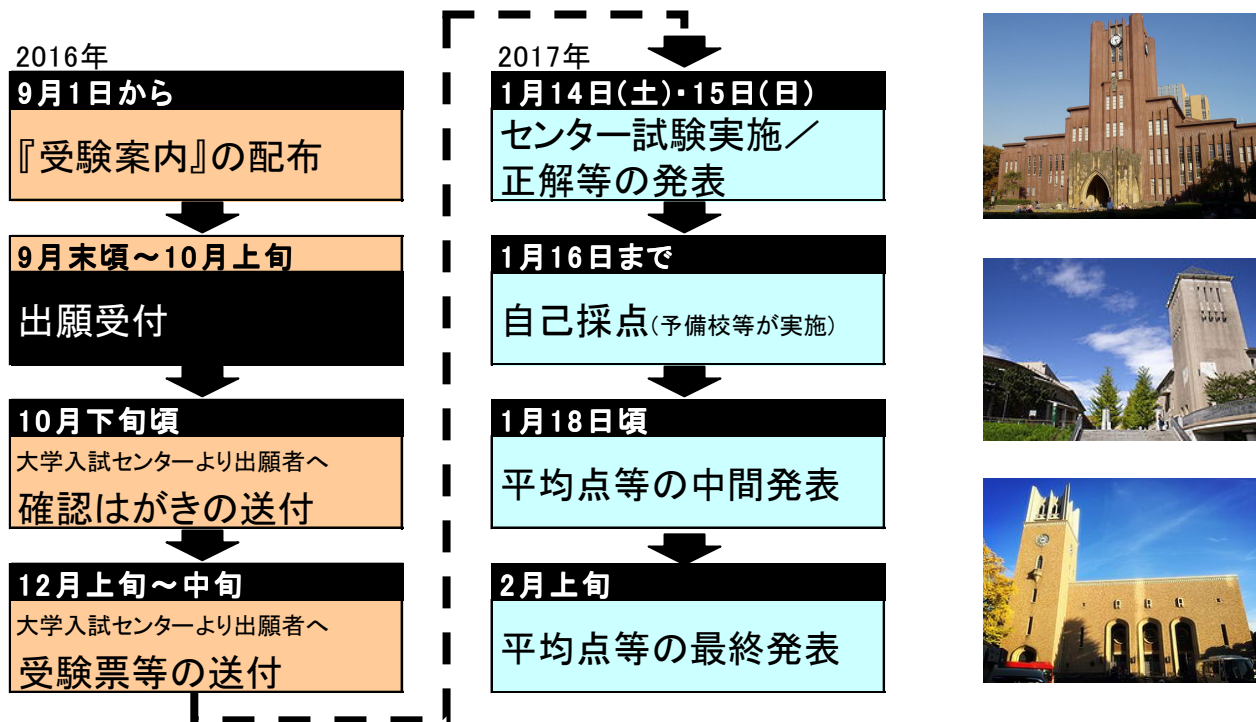
◇ 大学入試を基礎から知る 第10回 <センター試験のポイントはこれ！>

センター試験は、毎年1月中旬の土曜日・日曜日に、全国一斉に、同一問題で実施され、例年50万人以上が受験する試験である。国公立大の一般入試では1次試験としての役割を担い、私立大はセンター利用方式などで使用しているため、受験生の多くが受験する。その結果は、入試動向を左右することもあるほど、極めて重要な位置づけにある。

2017年度センター試験で出題されたのは6教科・30科目。受験生は、その中から、各大学が指定している教科・科目を受験した。センター試験は全てマークシート方式で、限られた時間で多くの問題に対応する力が重要となる。

試験後、公表された解答や配点を見て自己採点を行う。国公立大を受験する場合は、その自己採点結果をもとに、出願する大学を決めることになる。私立大学のセンター利用方式は3教科が中心で、センター試験の成績だけで合否を判定する 경우가ほとんどである。

■2017年度 センター試験の主なスケジュール



■センター試験を利用する入試の典型的なパターン

入試教科と科目数	<p>5(6)教科7(8)科目が大半</p> <p>国立大 典型的な科目構成は、「文系型」「理系型」、選択次第でどちらにもなる「文・理融合型」に分類できる。</p>	<p>「国語、数学2科目、外国語」に加え、 【文系型】地歴・公民2、理科[基礎2](or[発展1]) 【理系型】地歴・公民1、理科[発展2](or[基礎2+発展1])(※) ※看護・医療系では、理科[基礎2]or[発展1]も少なくない 【文・理融合型】「地歴・公民、理科」から3(4)科目など</p>
	<p>3教科3科目～5教科7科目など</p> <p>公立大 5教科以上を課す学部が多いが、3教科や4教科でOKのところも少なくない。</p>	<p>【文系型】「国語、外国語」がベース。 大学により地歴・公民、数学、理科[基礎2](or[発展1])が加わる 【理系型】「数学2科目、理科[発展2](or[基礎2+発展1])、外国語」がベース(※)。大学により国語、地歴・公民が加わる ※看護・医療系は、理科[基礎2]or[発展1]がメイン</p>
	<p>2教科2科目～3教科3科目が中心</p> <p>私立大 選択教科は幅広く、右記以外の教科から選択できる大学も多い。中堅上位から難関大では4教科4科目～5(6)教科7(8)科目の重量入試もある。</p>	<p>【文系型】国語、「地歴・公民、数学から1科目」、外国語 【理系型】数学1～2科目、理科[基礎2]or[発展1]、外国語</p>